

# 水リスクと企業



グローバルウォータージャパン代表  
(国連テクニカルアドバイザー)

吉村 和就

グローバル化が加速し、多くの日本企業が海外で積極的に事業展開している。しかし、その先には多くのリスクが待ち構えている。相手国の政治的リスク、為替リスク、テロ・暴動などのリスクが存在するが、今まであまり注目されてこなかったのが「水リスク」である。

## 世界における水リスク問題

及ぼす事例が増えるであろう。では企業にとり、どのような水に関するリスクが存在するのであろうか。第一回は世界の水リスク問題について述べてみたい。

水リスクの顕在化、例えば2011年7月に起こったタイ大洪水の被害額は1億4千万バツ(約3兆5千億円)であり、これはタイの国民総生産(GDP)の10%に相当し、過去最大の損失であった。このタイの洪水被害額は、世界の自然災害による経済損失400

# 人口増加や地球温暖化：50年までに水不足10億人

1961年ソ連(現ロシア)のカガリン少佐が、人類で初めて宇宙で淡水は2.5%しかない

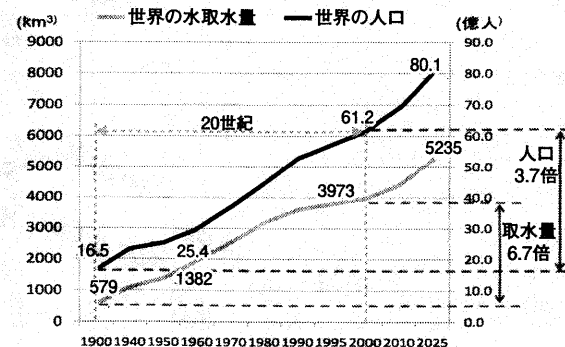
の人は14億立方メートルあるが、その97.5%は海水で淡水は2.5%しかない

水は貴重だが、残り約3割は地下淡水資源の7割は氷山・水河や万年雪で固定さ

つまり人間がエネルギーを消費して固定さ

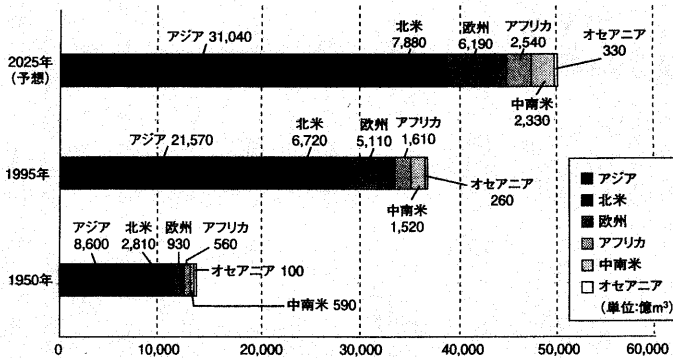
0.01%しか使えない。しかもこの貴重な淡水資源の7割は氷山・水河や万年雪で固定さ

0.01%しか使えない。しかもこの貴重な淡水資源の7割は氷山・水河や万年雪で固定さ



出典：人口：UN, World Population Prospects  
取水量：WORLD WATER RESOURCES AND THEIR USE a joint UNESCO product

世界人口と取水量の推移



出所：国土交通省「日本の水資源 平成19年度版」

急増する世界の水需要

人口増加と水需要  
水資源に限られる中で、世界人口が急増している。人口増加と水需要に関する国連の調査によると、1900年から2000年までの人口増加率は3.7倍だったが、その取水量は6.7倍になっている。2000年以後、さらなる経済発展と都市人口の増加により、世界の取水量は激増し、水不足状態が世界に広がっている。OECD(経済協力開発機構)の調査によれば50年までに、世界の水需要はさらに55%増えることが予測されている。すなわち2000年比で製造用水は400%増、電力用水は140%増、生活用水は130%増加することになる。これは大変なことである。現在

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は、50年までに世界で10億人以上が水不足の影響を受けると予測している。また都市化率の高い中緯度地域では河川流量が10~30%減少し、高緯度地域では河川流量が10~40%増加することも述べている。

地球温暖化と水資源

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は、50年までに世界で10億人以上が水不足の影響を受けると予測している。また都市化率の高い中緯度地域では河川流量が10~30%減少し、高緯度地域では河川流量が10~40%増加することも述べている。

つまり地球温暖化の影響により世界中で干ばつや洪水が頻発し、水が必要な地域における水資源の量と質が予測できない不安定状態に突入している。

このように、企業にとってグローバルな水資源リスクは日増しに増大している。